



# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○2022年度（第71回）農業農村工学会大会講演会の参加申込み  WEB 事前参加登録 6月1日～8月1日	60
○2022年度（第71回）農業農村工学会大会講演会（石川大会）の企業展示および広告掲載申込み 申込締切 6月30日	61
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	61
○2022年度からCPD利用料等を改定します	62
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	62
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	63
○2023年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	63
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	64
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	65
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局	65
○第79回京都支部研究発表会の開催  発表申込締切 6月30日	66
農業農村工学会論文集 内容紹介	68
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介	70
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	72
学会記事	73

## 会員のみなさまへ

引っ越しや転勤で個人情報に変更のある方は、引き続き、学会誌等を正しくお届けするため、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。

なお、会員専用サイトでも、登録された個人情報の確認と変更手続きができます。

### 第90巻第5号予定

展望：田中丸治哉

小特集：大規模農業水利施設が人々の生活を支える

報文：供用50年が経過した新川河口自然排水樋門の損傷実態評価：島本由麻ほか

報文：水資源機構における水路等事業のストック効果：日置秀彦ほか

報文：愛知用水・豊川用水の果たしてきた役割と今後の展望：河合久志ほか

技術リポート

北海道支部：水理特性が異なる複数の水理ユニットを受け持つ分水工の設計：佐藤 至ほか

関東支部：吐水槽におけるコンクリート補修の施工事例：中村周平

京都支部：ほ場整備事業における盛土荷重載荷工法の効果検証：大木博昭

中国四国支部：水田園芸の推進に向けた土壌改良実証：長谷川弘興

九州沖縄支部：反転工法（INS工法）による管更生工事：内村三信ほか

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2022年8月30日～9月2日	大会運営委員会	2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会	—	金沢市	89巻12号 90巻1, 2, 4号
2022年11月30日, 12月1日	京都支部	第79回研究発表会	—	神戸市	90巻4号

### 2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会の参加申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2022年度(第71回)農業農村工学会大会講演会は、2022年8月30日(火)～9月2日(金)の4日間、石川県地場産業振興センター(石川県金沢市)およびANAクラウンプラザホテル金沢で開催されます。本稿では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(事前登録)は、2022年6月1日から8月1日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌第7号(Vol.90/No.7)でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

#### 1. 開催要領

##### (1) 開会式典および学会賞表彰式：

8月30日(火) 13:30～

会場 石川県地場産業振興センター本館大ホール  
石川県金沢市鞍月2-1

TEL: 076-268-2010

##### (2) 交流会(予定): 8月30日(火) 18:00～

会場 ANAクラウンプラザホテル金沢  
石川県金沢市昭和町16番3号

TEL: 076-224-6111

##### (3) 講演会: 8月30日(火), 31日(水), 9月1日(木)

会場 石川県地場産業振興センター本館および新館

##### (4) 現地研修会(予定):

石川県白山市・金沢市、羽咋市・輪島市方面

開会式および交流会などの開始時間については、プログラムとの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌第7号に掲載します。

#### 2. 申込方法

2022年度(第71回)農業農村工学会大会専用ホームページ(2022年6月1日～8月1日開設)から参加登録(事前登録)をしてください。8月2日以降は当日登録のみとなります。この専用ホームページは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。専用ホームページによる登録ができず、その他

の方法での申込みを希望する場合は、「7. (1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

#### 3. 参加費用

##### (1) 大会参加費用と内容：

区分	事前登録(8/1まで)	当日登録
一般	8,000円	10,000円
学生	0円	0円
一般(オンライン聴講)	8,000円	10,000円
学生(オンライン聴講)	0円	0円

##### (2) 交流会参加費：

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページ、および、本誌第7号に掲載します。

##### (3) 現地研修会参加費：

詳細については、農業農村工学会大会専用ホームページ、および、本誌第7号に掲載します。

#### 4. 昼食

会場周辺には飲食店やコンビニが少ないことから、弁当の事前予約を受け付けます。農業農村工学会大会専用ホームページでの参加登録(事前登録)の際にお申し込みください。なお、大会当日の弁当販売は行いません。

#### 5. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承ください。

#### 6. 会場までの交通案内

石川県地場産業振興センター、および、ANAクラウンプラザホテル金沢までのアクセスにつきましては、以下のウェブサイトをご参照ください。

石川県地場産業振興センター

<https://www.isico.or.jp/site/jibasan/>

ANAクラウンプラザホテル金沢

<https://www.anacrownplaza-kanazawa.jp/>

#### 7. 問合せ先

##### (1) 参加申込みに関する問合せ

近畿日本ツーリスト(株)金沢支店

「農業農村工学会 2022 年度大会講演会」係  
〒 920-0901 石川県金沢市彦三町 1-2-1  
アソルティ金沢彦三 3 階  
TEL : 076-232-0571  
E-mail : jsidre2022@or.knt.co.jp

- (2) 大会全般に関する問合せ  
2022 年度農業農村工学会大会事務局 藤原洋一

〒 921-8836 石川県野々市市末松 1-308  
石川県立大学生物資源環境学部  
TEL : 076-227-7479 FAX : 076-227-7410  
E-mail : yfuji@ishikawa-pu.ac.jp

8. 大会実行委員会

委員長 一恩英二  
石川県立大学生物資源環境学部

2022 年度（第 71 回）農業農村工学会大会講演会（石川大会）の企業展示および広告掲載申込み

2022 年 8 月 30 日（火）、31 日（水）、9 月 1 日（木）の 3 日間、石川県地場産業振興センター（金沢市）で開催されます。2022 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行うとともに大会講演会概要集への広告掲載を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。

1. 企業展示

石川県地場産業振興センター 本館ギャラリー  
※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（A4 判モノクロ印刷）  
※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- |                         |           |
|-------------------------|-----------|
| ① 広告 1 ページ              | 60,000 円  |
| ② 広告 1/2 ページ            | 30,000 円  |
| ③ 企業展示（屋内）              | 80,000 円  |
| ④ 広告 1 ページ + 企業展示（屋内）   | 120,000 円 |
| ⑤ 広告 1/2 ページ + 企業展示（屋内） | 100,000 円 |

4. 申込方法

(1) 申込用紙の送付

所定の申込用紙（農業農村工学会大会講演会のページ（<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaiikai/>）に掲載）を、また、企業展示の場合は、(2) に示す展示概要（任意様式）を大会事務局に送付（郵送、E-mail 等）。その後の手順は以下のとおりです。

- a（大会事務局）申込み受付後、貴社へ連絡

- b（貴社） 広告原稿の送付（広告の場合）、資料用原稿の送付（企業展示の場合）  
c（大会事務局） 請求書の発送、大会講演会概要集の発送（広告の場合）、企業展示資料の発送（企業展示の場合）

- d（貴社） 振込み

- e（大会事務局） 領収書発送

(2) 展示概要

展示する内容および必要物品等（要電源、机、イス等）、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。基準面積は幅 1.8 m × 奥行き 1.5 m（屋内）です。

- (3) 申込期限 2022 年 6 月 30 日（木）まで

(4) 振込先

- ・金融機関：北國銀行
- ・店名：栗田支店
- ・店番：227
- ・預金種目：普通預金
- ・口座番号：41863
- ・口座名義：2022 年度農業農村工学会大会講演会実行委員会

(5) 申込み・問合せ先

2022 年度農業農村工学会大会事務局 藤原洋一  
〒 921-8836 石川県野々市市末松 1-308  
石川県立大学生物資源環境学部  
TEL : 076-227-7479 FAX : 076-227-7410  
E-mail : yfuji@ishikawa-pu.ac.jp

お願い !! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で 2021 年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優

遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）  
（※特に記載がなければ（1）として扱います。）  
(2) 条件を付した寄付

選定条件【

】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
  - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
  - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発
- ③ ①, ②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
  - ・上記①, ②以外, たとえば ICT など新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理  
 ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など  
 詳しくは学会ホームページ ([http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)) をご覧ください。

個人会員一口 5,000 円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000 円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置 (一般損金算入限度額+特別損金算入限度額) が受けられます。

## 2022 年度から CPD 利用料等を改定します

2022 年 4 月 1 日より CPD 利用料等を改定します。

現行の CPD 利用料等は、課税対象となった 2011 年度に CPD 利用者の負担増を避けるために内税扱いにして実質的に本体価格を減額し、以降その価格を維持してきましたが、2022 年度から税抜価格を当初の価格に再設定いたします。また、CPD 取得証明書の発行費用を 1,500 円 (税別) に増額する一方で、CPD 法人登録者 (D 区分) の利用料を 15,000 円/件 (税別) に減額いたします。改定内容は下記のとおりです。なお、

1 機関当たり新たに 100 人以上がまとめて登録する場合の登録料免除や、30 人以上が所属する機関において利用料を一括納入する場合の割引については、それらの制度を維持します。

見込まれる収入の増分は、喫緊の課題であるセキュリティの一層の強化や利用者サービスの向上を図るためのシステム改造費に充当する計画です。

ご登録の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

	現行価格 (税込価格)	2022 年度からの改定価格 (税込価格)
1. CPD 登録料	953 円 ( 1,048 円)	1,000 円 ( 1,100 円)
2. CPD 年間利用料 (個人)		
・学会員	2,381 円 ( 2,619 円)	2,500 円 ( 2,750 円)
・非学会員	3,810 円 ( 4,191 円)	4,000 円 ( 4,400 円)
3. CPD 年間利用料 (法人)		
・A 区分	476,191 円 (523,810 円)	500,000 円 (550,000 円)
・B 区分	285,715 円 (314,286 円)	300,000 円 (330,000 円)
・C 区分	95,239 円 (104,762 円)	100,000 円 (110,000 円)
・D 区分 (1 件)	28,572 円 ( 31,429 円)	15,000 円 ( 16,500 円)
4. CPD 取得証明書	953 円 ( 1,048 円)	1,500 円 ( 1,650 円)
5. 緊急処理費用	9,524 円 ( 10,476 円)	10,000 円 ( 11,000 円)

## CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等

の事的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 4 号掲載の問題は 5 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 2023 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2023 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

#### 2. 対象巻号 学会誌第 91 巻（2023 年第 1~12 号）

#### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写

真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。

四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

#### 4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締 切 春季 2022 年 6 月 30 日

夏季 2022 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

#### 6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第 91 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2023 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

#### 8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

## 9. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

## 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

## 11. 応募方法および応募先

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

## 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

## 学会誌第90巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第90巻第5号 大規模農業水利施設が人々の生活を支える（仮）	終了
6号 流域治水の機能強化に向けた中山間地域の利活用と維持管理（仮）	終了
7号 大会特集号（京都支部）	公募なし
8号 全国の水田水域における生態系保全対策の評価および新手法の適用（仮）	公募なし
9号 みどりの食料システム戦略に貢献する農業農村工学（仮）	終了
10号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅰ）（仮）	公募なし
11号 現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅱ）（仮）	公募なし
12号 農業農村工学分野における今後の産学官連携のあり方（仮）	6月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

## 第90巻第12号テーマ「農業農村工学分野における今後の産学官連携のあり方」（仮）

平成8年に閣議決定された「科学技術基本計画」において、産学官の連携・協力が一つの柱とされました。農業農村工学分野においても現場の課題に対して、産学官が連携して技術開発・研究を行ってきました。今後も国内外の農業農村の持続的な発展および、SDGsや「みどりの食料システム戦略」に貢献していくためには、産学官の英知を結集し、新たな技術の開発と社会実装、そしてその基盤となる人材育成を進めていくことがより重要になっていくと思われまます。

近年は生産者の高齢化や災害の激甚化など農業農村を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方で、日進月歩で進化しているIoTやDXといった技術を活用したスマート農業は、農家の作業負担の軽減や高収益作物の生産の加速化に、またはドローン（UAV）を活用した土砂災害発生状況の早期把握、農薬のピンポイント施用による環境負荷軽減等に貢献しています。また、FOEASやOP SISといった日本独自の地下灌漑技術や圃場水管理システム「WATARAS」<sup>ワタラス</sup>、農業機械の自動運

転等の斬新な技術が多く地域の域で成果を上げています。

これらは産学官が連携して研究開発と社会実装に取り組んだ結果です。研究者、民間技術者、行政が強みを活かし、農業農村を取り巻く時代のニーズにこたえていくことは、これからも重要なテーマです。新規技術だけでなく、これまでの大学や研究所での研究成果を民間の方と掘り起こすことで、現場に活用される技術があるのではないのでしょうか？ 一方、近年はスマート農業技術のように従来の農業農村工学の学問分野の域を

超えた技術との連携、農業の成長産業化に向けた農学・経済・流通等の分野との連携等、産学官の連携のあり方も大きく変化しています。併せて、そのような研究・技術の連携の下で、これからの農業農村を担う人材の育成を進めていく必要があります。そこで、本小特集では、これからの農業農村分野における産学官の連携とそれを通じた人材育成のあり方の参考となる報文を広く募集します。

## 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧申込み案内

#### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/>) での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail にてお申し込みください。

[suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版および Web版が付記されたコンテンツになります。なお、Web版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2022年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2020年のインパクトファクター（IF）は1.517と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界 11 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2020 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

##### • Editor-in-Chief

**Dr. Takao MASUMOTO**

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

##### • Associate Editors-in-Chief

**Dr. Seong-Joon Kim**

Konkuk University, Korea

**Dr. Yu-Pin Lin**

National Taiwan University, Taiwan, ROC

##### • Editors 13 カ国から 20 名

##### • Editorial Advisors 30 名

##### • Chief Managing Editor

**Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

##### • Managing Editors

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Masayuki FUJIHARA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

**Dr. Eunmi HONG**

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

**Dr. Toshiaki IIDA**

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

**Dr. Taeil JANG**

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Soji SHINDO**

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022 年 6 月まで韓国担当)

##### • Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University

1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA

TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

## 第 79 回京都支部研究発表会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



### 1. 研究発表会

日時 2022 年 11 月 30 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00

場所 神戸市産業振興センター

〒 650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町 1-8-4

TEL : 078-360-3200

(受付・開会式、表彰式・基調講演・研究発表会・情報交換会)

### 2. 情報交換会

日時 2022 年 11 月 30 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

### 3. 現地研修会

日時 2022 年 12 月 1 日 (木) 9 : 00 ~ 16 : 00

### 4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、以下の情報を簡条書きにしたメールを下記の発表申込先 (大阪公立大学・中桐) にご送付ください (件名を「発表申し込み」としてください)。①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態



環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。

発表者要件は「発表者は学会員に限らない。ただし、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれること」となっております。なお、投稿原稿に関する詳細な要領は本誌第6号を参照してください。

#### 5. 参加費 (予定)

会 員：3,000 円

非会員：4,500 円

#### 6. 発表申込先

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪公立大学大学院農学研究科 中桐貴生

E-mail : nakagiri@envi.osakafu-u.ac.jp

TEL : 072-254-9647 FAX : 072-254-9437

#### 7. 申込期限

(1) 発表申込み 2022 年 6 月末日

(2) 原稿締切り 2022 年 7 月末日

(3) 参加申込み 2022 年 8 月末日

#### 8. 問合せ先

兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課

農村計画班 福永、石原

E-mail : kazuki\_ishihara@pref.hyogo.lg.jp

TEL : 078-361-3429 FAX : 078-341-2101

#### 9. その他

新型コロナウイルスの感染状況により、開催形式をオンラインにするなどの変更を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により、平均 3カ月 で審査終了！

→審査終了後、順次 J-STAGE に掲載！

→論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格！

→投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！